

多世代参加型ワークショップ：

研究者のワーク・ライフ・バランス ～子どもに関わることに注目して～

企画担当者：田村恵美（東京家政大学）

山瀬範子（國學院大學）

### 【企画趣旨】

平成19年12月、「官民トップ会議」が策定した「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」では、「誰もがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たす一方で、子育て・介護の時間や、家庭、地域、自己啓発等にかかる個人の時間を持てる健康で豊かな生活ができるよう、今こそ、社会全体で仕事と生活の双方の調和の実現を希求していかなければならない。」という。

研究者である私たちもワーク・ライフ・バランスにかかる悩みや不安、心配事に直面することが少なくない。研究、教育、校務などのワークを充実させたい一方で、婚活、妊活、子育て、孫育て、家族の介護や療養といったライフにもしっかりと関わりたいと考えている人は多いのではないかと。本企画では、特にライフの中でも特に子どもに関わることに注目したい。

研究者にとって、大学・大学院を卒業し就職活動に関わる時期と子どもを持つことを意識したり、親になり、子育てが始まる時期が重なったり近接したりすることは少なくない。また、研究者としての一定のキャリアを得てから妊活に取り組んだり、親になったりする人もいる。自身の子育てを終えた後、孫育てと仕事の両立を図る人もいる。

子どもを産み、育てるための様々な制度が整えられてきた一方、制度により研究活動に制限が加えられることもある。本ワークショップでは、若手からベテラン世代まで、様々な世代がワークショップを通じて交流する中で、「子ども」をキーワードとしてワーク・ライフ・バランスに係る思いや悩み、もやっとしていることなどを出しあい、どのような理解やサポートが必要なのかを考える契機としたい。また、それぞれの参加者がワーク・ライフ・バランスの実現のために、日々の営みのなかで直面している困ったことへのヒントを得る場所にもしたい。

様々な世代の会員に気軽に参加していただき、研究交流をはかるワークショップであるため、多くの会員の参加を期待する。

話題提供：多賀 太（関西大学）

※話題提供後、ワークショップとなります。